



# 日本食品化工株式会社 第103期定時株主総会

---

2024年6月26日



## 報告事項

第103期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）事業報告  
及び計算書類の内容報告の件

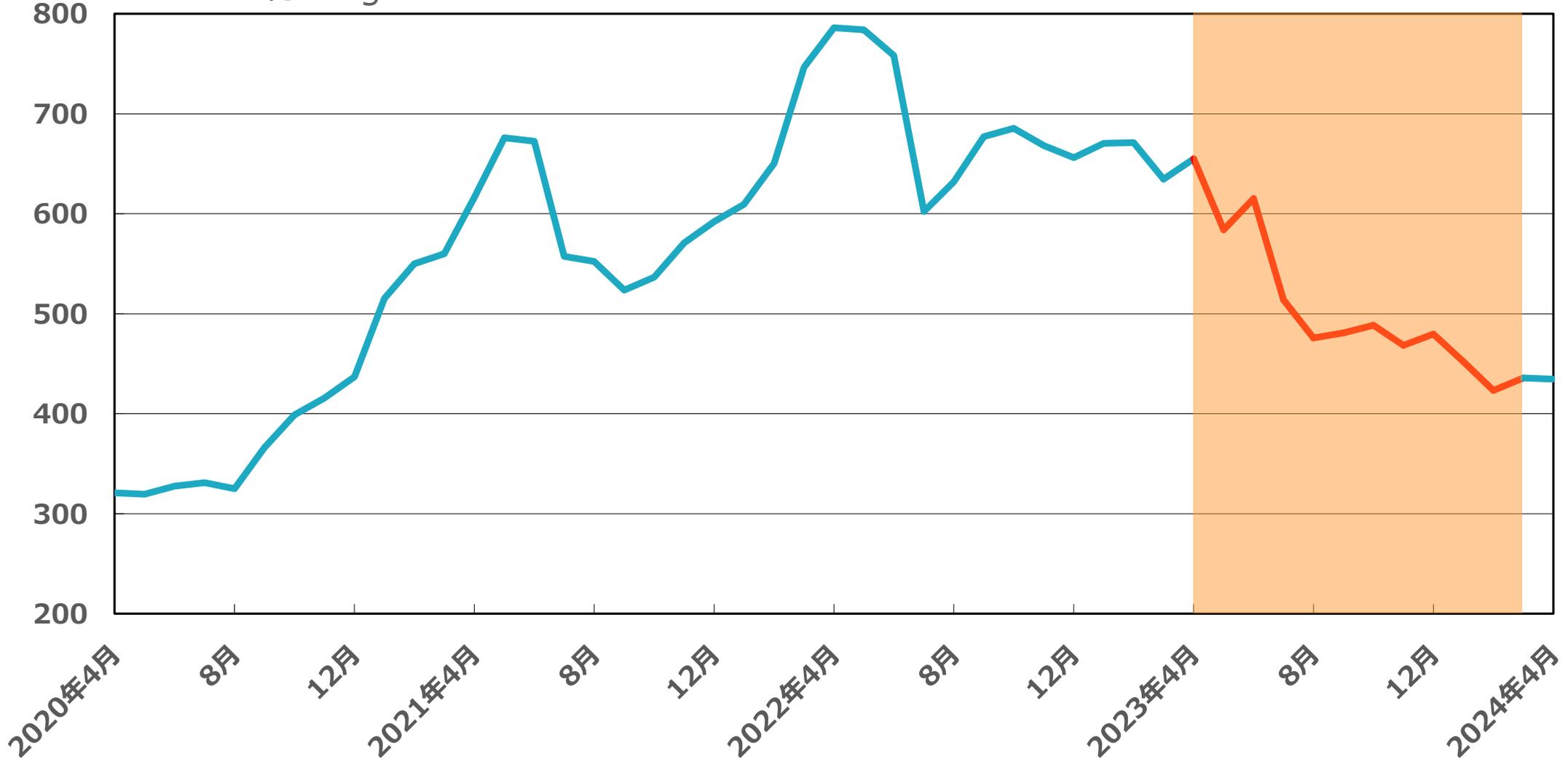


# シカゴ相場

(¢/Bu)

※1Bu = 約25kg

シカゴ商品取引所より



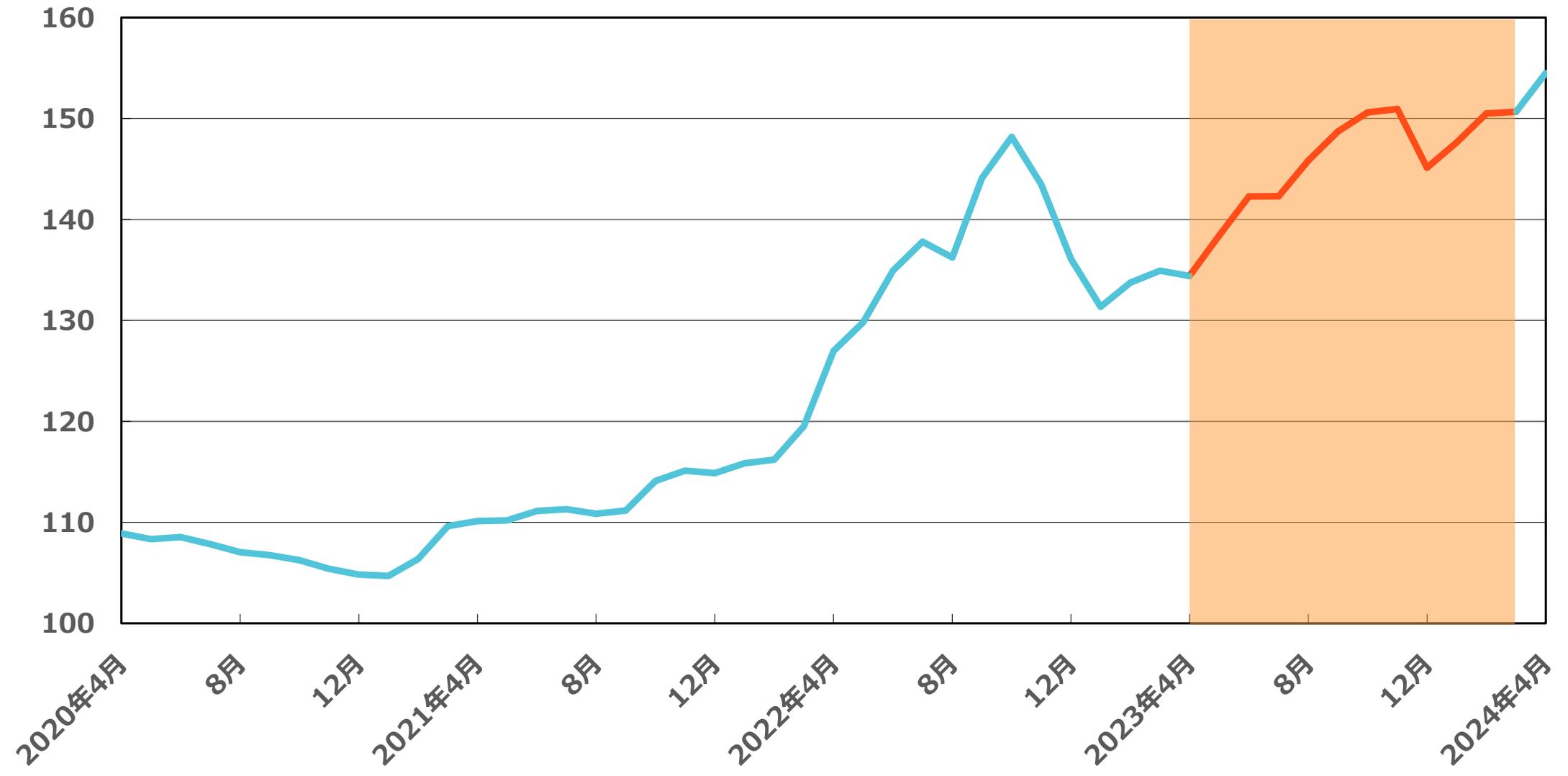
毎月平均値をグラフ表示



# 為替相場

(¥/\$)

T T S S P O T



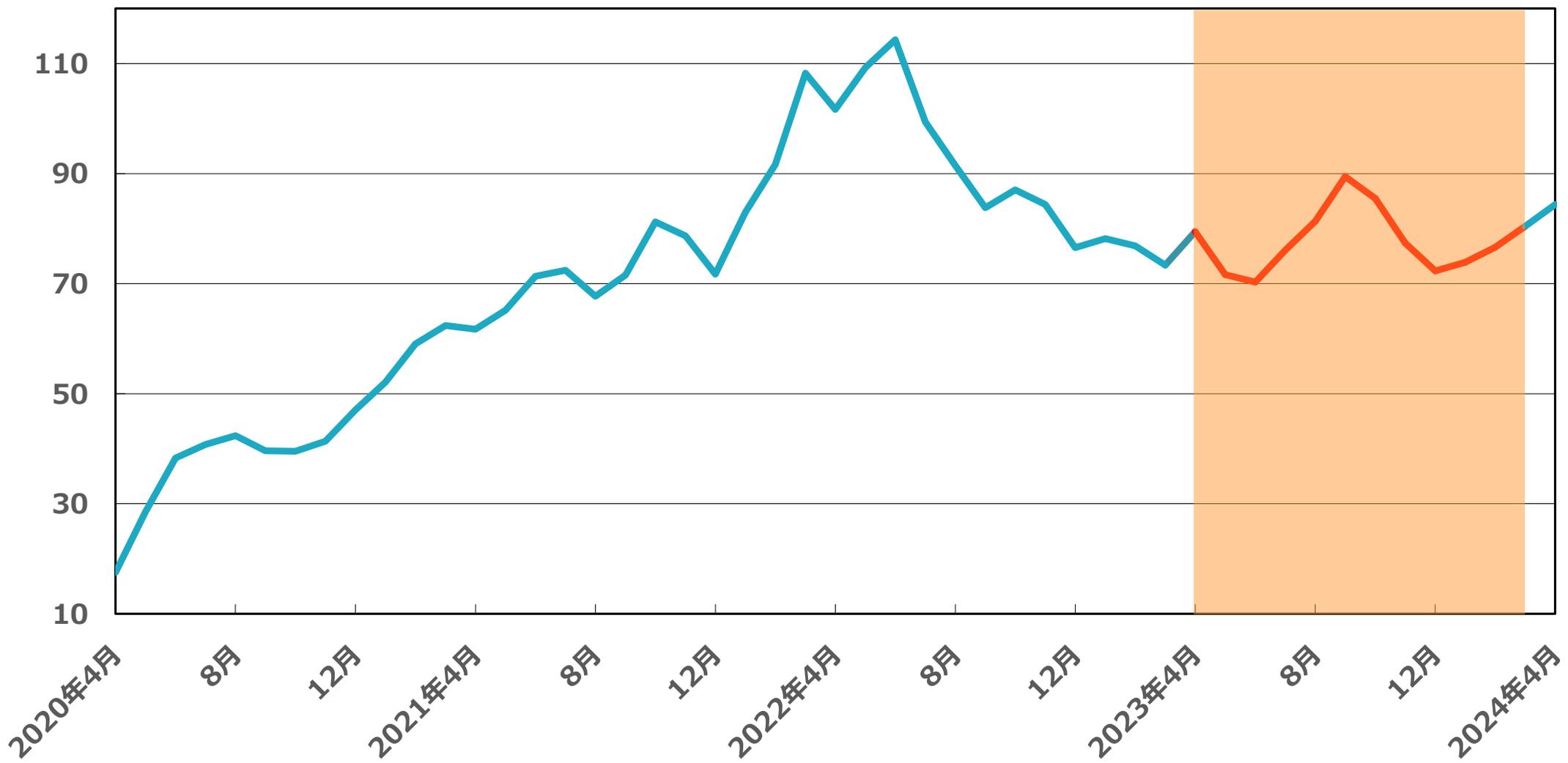
毎月平均値をグラフ表示



# 原油価格

(\$/BBL)

WT I

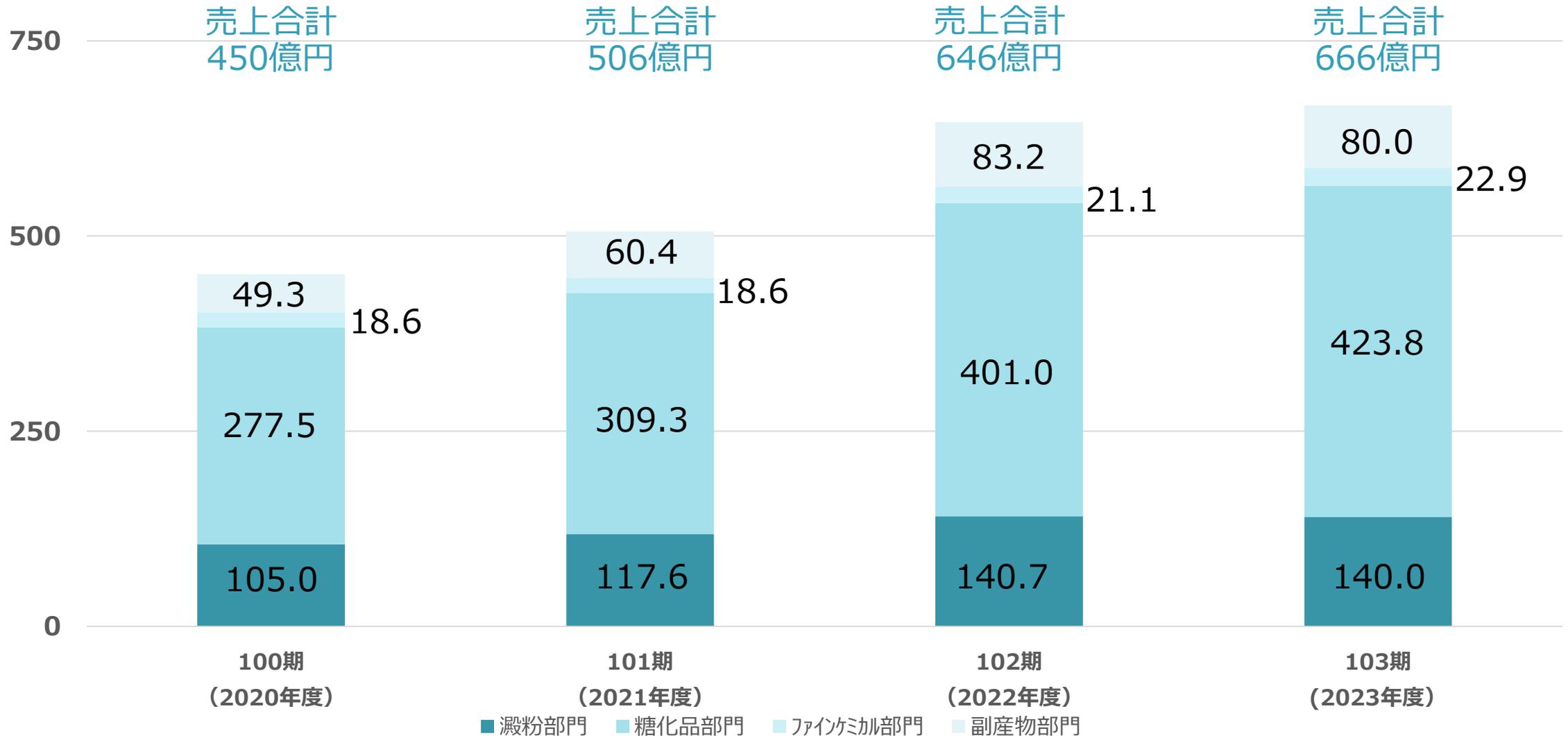


毎月平均値をグラフ表示



# 部門別売上高の推移

(単位：億円)





# 損益計算書

(単位：百万円)

	第 1 0 3 期 2023年4月1日から 2024年3月31日	第 1 0 2 期 2022年4月1日から 2023年3月31日	差 異
科 目	金 額		
売上高	66,676	64,612	2,064
売上原価	56,136	53,264	2,872
販売費及び一般管理費	7,976	7,807	169
営業利益	2,563	3,540	△977
営業外収益	738	477	261
営業外費用	293	676	△383
経常利益	3,008	3,341	△333
特別利益	566	396	170
特別損失	322	31	291
税引前当期純利益	3,252	3,706	△454
法人税、住民税及び事業税法 人 税等調整額	839 △22	1,224 △123	△385 101
当期純利益	2,434	2,605	△171



# 貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

	第103期 (2024年3月31日現在)	第102期 (2023年3月31日現在)	差異
科目	金額		
<u>資産の部</u>			
流動資産	30,462	31,240	△778
固定資産	15,965	15,264	701
有形固定資産	13,419	12,468	951
無形固定資産	267	286	△19
投資その他の資産	2,278	2,509	△231
資産合計	46,427	46,504	△77



# 貸借対照表（負債・純資産の部）

(単位：百万円)

	第103期 (2024年3月31日現在)	第102期 (2023年3月31日現在)	差異
科目	金額		
<u>負債の部</u>			
流動負債	17,677	19,362	△1,685
固定負債	4,419	4,443	△24
負債合計	22,097	23,806	△1,709
<u>純資産の部</u>			
資本金	1,600	1,600	—
資本剰余金	327	327	—
利益剰余金	24,096	23,039	1,057
自己株式	△2,148	△2,148	—
その他有価証券評価差額金	62	73	△11
繰延ヘッジ損益	391	△194	585
純資産合計	24,330	22,698	1,632
負債・純資産合計	46,427	46,504	△77



	課 題	対 応
短期課題	記録的な円安傾向 不安定な原燃料相場・副産物相場	販売価格の適正化 コストの削減・平準化
中長期課題	国内需要の減退	独自価値の素材提供
		新規市場開拓 (非食品分野・海外市場等)
	持続可能な社会の実現	S D G s の推進



# 2024年度の業績予想

	第104期 連結 予想 (2024年度)	第103期 単体 実績 (2023年度)
売上高	625.0億円	666.7億円
営業利益	13.0億円	25.6億円
経常利益	17.0億円	30.0億円
当期純利益	13.0億円	24.3億円
配当単価	80円	200円

※104期より連結決算への移行に伴い、連結決算数値を記載、103期は単体決算数値を記載しています。



# 中経2024の進捗状況





## ソリューション提供機能の強化

- ▶ 規模的成長を実現する仕組み構築
- ▶ 新たな主力製品の創出
- ▶ 新市場の開拓



## プライマリー事業の収益安定化

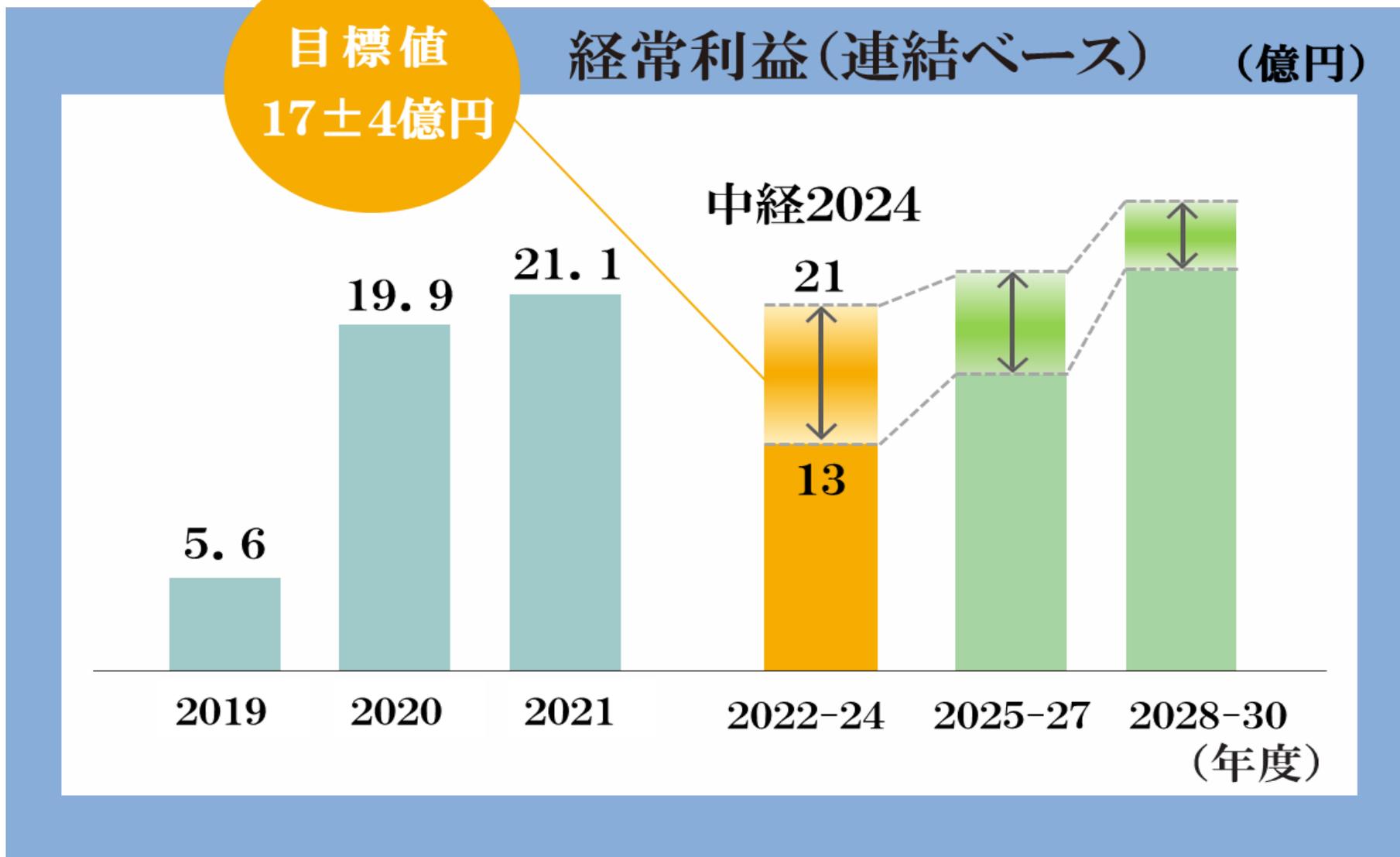
- ▶ 相場に左右され難い安定した基盤づくり
- ▶ コスト競争力の強化
- ▶ 環境負荷低減への取り組み



## 経営基盤の整備

- ▶ 事業の発展につながる土壌づくり
- ▶ DX推進







103期は体制強化期とした中経2024の2年目。定量目標（連結ベース経常利益17±4億円）を上回る実績だが、課題も浮き彫りとなった。104期は厳しい見通しとなるが、中経2024最終年度の仕上げとして、収益力向上、組織活性化に繋がる施策を推進する。

	<b>102期</b> (2022年度)	<b>103期</b> (2023年度)	<b>104期 予想</b> ※ (2024年度)
経常利益	33.4 億円	30.0 億円	17.0 億円
配当性向	34.0 %	40.4 %	30.3 %

※ 102、103期は単体、104期より連結決算として記載



## 基本方針

ソリューション提供  
機能の強化

プライマリー事業  
の収益安定化

経営基盤の整備

## 103期進捗と今後の課題

新規事業開拓に向け、当社技術力の顧客開発部門への積極紹介を実施、新製品として澱粉プラスチック（スタークロス70PPI）を上市。既存ソリューション製品の増販、AMSCO事業拡充が引き続きの課題。

繁忙期の異性化糖の安定供給体制を強化、前期からの販売価格の適正化が進む。コスト競争力ある原燃料調達、ボイラー更新等の計画的設備投資、副産物収益の安定化などに注力していく。

組織風土の向上やカーボンマネージメント等のサステナビリティ経営に繋がる諸施策を推進。全社的なDXの取り組み、多様な人材が活躍できる職場環境整備の他、組織活性化に向けた更なる施策を進める。



## 決議事項

<会社提案（第1号議案から第3号議案まで）>

第1号議案 剰余金の処分の件

第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

第3号議案 監査等委員である取締役4名選任の件



多様な Well-being のために



日本食品化工株式会社